

チリ共和国との震災教訓の共有（河北新報社「むすび塾」実施支援）

掲載日:2013年12月7日 (C)河北新報社

10年チリ大地震津波

被災現場や慰霊碑視察



「被害伝承できる物必要」 むすび塾、コンステイトウシオン市入り

【コンステイトウシオン（チリ）東野滋二報道部】巡回ワークショップ「むすび塾」開催のため、河北新報社と国際交流基金が合同で南米チリに派遣した訪問団は現地時間の5日、2010年2月のチリ大地震津波で大きな被害を受けたマウレ州コンステイトウシオン市に入った。特に犠牲者が多かったオレゴ島に赴き、遺族らが設置した慰霊碑を視察した。

島は市内を流れるマウレ川河口部にある。かつては木に登って助かっていたが、津波発生時約60人が犠牲になった。津波にのまれたとい

いのちと地域を守る

案内したサンドラ・コントレイラスさん(48)は娘2人と孫1人を亡くした。「いつも娘が犠牲になったことを思い出す。津波の危険性を自覚し、逃げる手段を確保しておくことの大事さを伝えていかなければならない」



オレゴ島の慰霊碑を訪れたむすび塾の語り部たち
＝コンステイトウシオン市

と訴えた。

訪問団には、東日本大震災の語り部として宮城県南三陸町の農業後継者さん(66)と、石巻市のた物を残した方が、何が

主婦佐藤麻紀さん(42)が参加。後藤さんは津波をかぶって枯れそうなるユーカリの木を指し「被災した物を残した方が、何が

ワークショップを開く。8日にはヒオビオ州タルカウアノ市に舞台を移し、津波対策について意見を交わす。

チリ沿岸 巨大地震起きやすく

チリ沿岸は、日本に甚大な津波被害を引き起こした1960年のチリ地震をはじめ、巨大地震が繰り返している。日本の東北沖と同様に、沖合の海溝でプレート（岩板）境界にひずみが蓄積されるためだ。

米地質調査所（USGS）によると、60年の地震はマグニチュード9・5の超巨大地震だった。M8・8だった2010年の震源付近では、1751年と1835年にもM7・5以上

起きたのかを伝承できると話した。

訪問団は6日、市役所カウアノ市に舞台を移し、津波対策について意見を交わす。